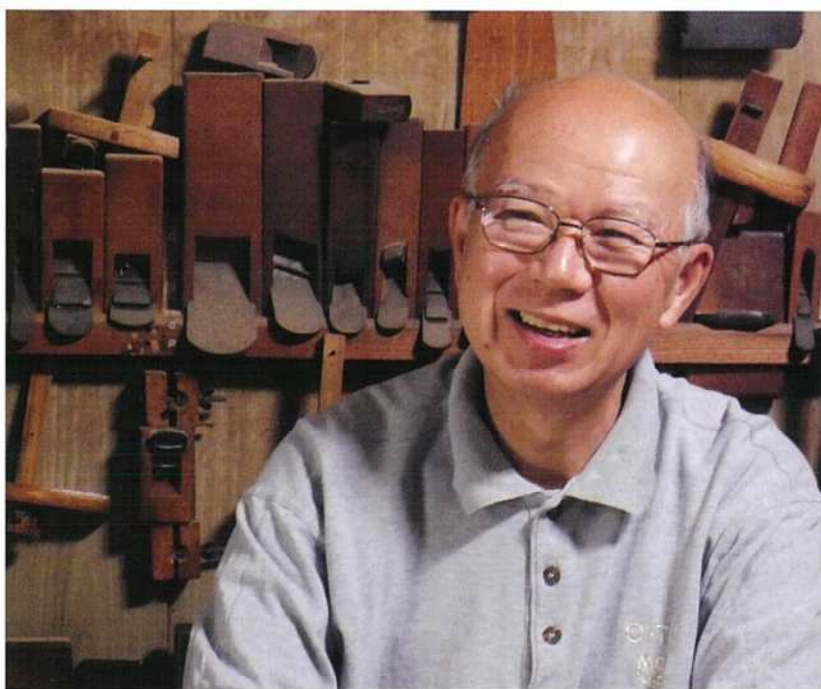


伝統に生きる

— あらかわの工芸技術 —



さしもの

指物

いのうえ よしお

井上 喜夫

(平成26年度作品)

DVD

カラー・29分

プロフィール

住所 荒川区東日暮里四丁目18番5号

昭和17年1月1日生(1942年) 東京都台東区生まれ

平成4年度、荒川区登録無形文化財保持者に、平成25年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される

井上さんは、昭和36年、高校卒業後、父・猪治氏(故人、元荒川区指定無形文化財保持者)に師事し、指物の技術を修得した。

指物は、ほとんど釘を使わず精巧な木組みを用いて、引出しや蓋のある箱などを作る技術である。その技術は地域によって、それぞれに特徴を持つといわれる。東京に伝わる江戸指物は、武家用、商人用や江戸歌舞伎役者用を中心に発達し、継ぎ手を表に見せない工夫などにより、“華奢さで粋を表現する”のが特徴とされる。

井上さんは、キハダ、ケンポナシ、クワ、キリなどの木材を中心に、茶筆筒、飾棚、文机、小引出しなどの家具や調度品、歌舞伎役者が使う楽屋鏡台を製作する。2人の後継者・弟子とともに仕事に取り組んでいる。

企画・著作 荒川区・荒川区教育委員会

制作 株式会社 文化工房

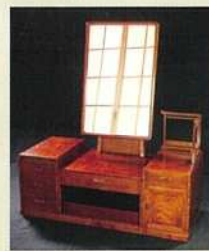
[用具・工具・材料]

「用具・工具」

カンナ、ノミ、ノコギリ、ガリ台、ケビキ、あて台、^{こぐちだい}木口台、ハタガネ、
木工用ボンド、サンドペーパーなど

「材料」

キハダ、キリ、ケンボナシ、クワなどの木材、漆



[工程] - 楽屋鏡台を作る -

- (1) 木取り 作る大きさに合わせて、木目などを考慮しながら板をノコギリで切る。
今回はケンボナシを使用。
- (2) 木削り カンナで荒削りし、1、2日乾燥させる。その後、仕上げ削りをする。板の表面を整え、高いところを削り、板の歪みを直す。木目が逆目の部分をとめる（処理する）。
- (3) 組み手加工（小穴） 板と板をつないで組むための「ほぞ」や小穴を作る。最初に、引出し部分、棚板を差し込む「みぞ」をノミで彫っていく。仕上げにガリ台で深さを一定にそろえる。
- (4) 組み手加工（ほぞ） 板にケビキで線を引き、ノミなどを使って「ほぞ」を作る。「ほぞ」は凹凸の切り込みで、2枚の板を合わせて、直角につなぐ。「ほぞ」のところを「仕口」とも呼ぶ。
- (5) 仮がため 「ほぞ」がかみあうかどうか一度組み立てする。
- (6) 組立て 木工用ボンドをつけて、手のこぶしであたりを確かめながら金槌を使ってはめこむ。その後、ハタガネで締め付けて固定する。
- (7) 外部仕上げ（面取り） 豆ガンナで面取りし、角に丸みをつける。
- (8) 外部仕上げ（磨き） 滑らかになるように磨きを施す。
- (9) 引出しを作る 引出しには桐を使う。板と板を合わせて1枚にする「板はぎ」をして使用。木削りからホゾ組まで行い、さらに底板をはり、綿紐で締め付けて固定する。
- (10) 塗り 漆を使って、拭き漆を行う。布で塗っては拭き取る作業を8～10回ほど行い、木目を際立たせ艶を出す。
- (11) 完成 最後に金具を取り付け、鏡を本体に差し込み完成。



「伝統に生きる-あらかわの工芸技術-」は、江戸から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術を保存継承し、広く普及することを目的に、荒川区指定無形文化財保持者の技術を記録した映像作品です。DVDは、荒川区の図書館で貸し出しています。また、荒川ふるさと文化館1階郷土学習室で視聴できますのでご利用下さい。

問い合わせ先

■ 内容等に関すること

荒川区立荒川ふるさと文化館・・・3807-9234

● 荒川区ホームページ内「あらかわまなびプラザ」

<http://www.city.arakawa.tokyo.jp/arapura/index.html>

■ DVD 貸し出しに関すること

南千住図書館・・・3807-9221 町屋図書館・・・3892-9821

荒川図書館・・・3891-4349 日暮里図書館・・・3803-1645

尾久図書館・・・3800-5821

汐入図書サービスステーション・・・3807-8130

冠新道図書サービスステーション・・・3800-3321

● 荒川区立図書館ホームページ <http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/>